

## 13 F・スコット・フィッツジェラルド

F・スコット・フィッツジェラルド (F. Scott Fitzgerald, 1896-1940) は、メリーランド州旧家出身の父親エドワードと実業家マッキラン家出身の母親メアリーの長男としてミネソタ州セントポール (St. Paul) に生まれた。名前の由来はアメリカ国歌「星条旗」を作詞した弁護士フランシス・スコット・キーであり、彼はエドワードの遠縁でもあった。父親は藤家具工場を経営していたが、不況の煽りを受けてフィッツジェラルドが2歳になる前に倒産し、その後彼はセールスマンとして働くものの、再び職を失う。そのため、幼少時のフィッツジェラルド一家は、ニューヨーク州バッファローやシラキュースなどに転居を繰り返したほか、セントポールに戻ってマッキラン家の経済的支援を受けながらの生活が続いた。それでもフィッツジェラルドは、父親が体現する紳士的な上品さや優雅さに魅かれていた。

1913年にプリンストン大学に入学すると、フットボールのスターを目指した。しかし体格に恵まれず、大学フットボールのレベルや厳しさゆえに諦めざるを得なかつたフィッツジェラルドは、執筆活動に励んだ。そして学内雑誌に記事や詩、寸劇などを投稿したほか、ミュージカル・コメディの公演団体だったトライアングル・クラブの台本を書いてもいる。しかし学業成績は振るわず、マラリアに感染したため、1915年に休学してセントポールに帰郷する。その後彼は大学に復学するものの、17年に中退し、少尉として陸軍に入隊する。そしてフォート・レヴンワースで士官養成訓練を受けた。

しかしフィッツジェラルドは、ヨーロッパ戦線に出征することなく第一次世界大戦の終戦を迎えていた。それまでの間、アラバマ州のキャンプ・シェリダン (Camp Sheridan) に移動していた1918年に、彼はカントリー・クラブで、アラバマ州最高裁判事セイヤーの娘ゼルダと出会っている。そして翌年2月に彼が除隊した後、二人は婚約した。フィッツジェラルドはゼルダとの生活基盤を築くべく、ニューヨークのロン・コリアー広告代理店に就職する。しかし彼の経済力に疑問を抱いたゼルダは、一方的に婚約を解消している。

勤務先を退職したフィッツジェラルドは、故郷の両親が暮らす家に戻り、かつて出版社から却下されていた原稿を加筆改稿して、長編小説『楽園のこちら側』 (This Side of Paradise, 1920) として完成させた。この作品はスクリブナー社から出版されると、全米ベストセラーの上位に入ったばかりか高く評価され、フィッツジェラルドは一躍「ジャズ・エイジ」 (Jazz Age) と呼ばれた時代の寵児となっ

た。そして1920年4月に、再び婚約していたゼルダとニューヨークのセント・パトリック教会において結婚し、マンハッタンのホテルで華やかな新婚生活を始めた。そして翌年には娘フランシスが誕生している。その後もフィッツジェラルドは、一家で派手な生活を送り続けた。

1925年に代表作『グレート・ギャツビー』(The Great Gatsby) が出版される。書評において高く評価されたものの、初版の売り上げは2万2千部にとどまり、商業的には成功を博した作品とはならなかった。当時、一家で夜ごとにパーティーを開くなど享楽的な生活に明け暮れていたフィッツジェラルドは、高額となる生活費を稼ぐべく大衆雑誌に続々と短編小説を書いたばかりか、自らの小説の映画化権を売却してもいる。しかもスクリプター社の編集者マックスウェル・パークンズから何度も原稿料を前借りする必要さえあった。

27年1月にはユナイティッド・アーティスツ (United Artists) 社から招待され、ハリウッドで映画脚本を執筆したものの、制作には至らなかった。一方で当時のゼルダはバレリーナを夢見て、バレーに尋常ならぬほどに執着し始める。また30年4月に彼女は精神病の発作を起こし、スイスのヴァルモン・クリニックに入院した。6月にはプランジアン・クリニックに転院して療養生活を送った。32年に精神病が再発したゼルダは、ボルティモアのフィップ・クリニックに入院し、それからは入退院を繰り返すようになった。

アメリカが未曾有の大恐慌に転落する時期と同じくして、フィッツジェラルドの有名作家としての名声も失われていった。しかも彼は自己憐憫に満ちたエッセイを続々と発表するようになる。その一方でアルコール依存症に苦しむようになったほか、ゼルダとは疎遠になっていたフィッツジェラルドは、37年にMGMと契約を結びハリウッドに向かった。そしてハリウッドのゴシップ・コラムニストだったシーラ・グレアムと知り合い、翌年には同棲を始めている。

1939年3月からはフリーランスの脚本家としてパラマウント映画やコロンビア映画などで働くものの、アルコールに溺れて健康状態が悪化していたフィッツジェラルドは、何度か心臓発作に襲われている。そして40年12月21日の午後、グレアムのアパートで再び心臓発作を起こして44歳で死去した。一方で同年4月にハイランド病院を退院したゼルダは、故郷のモントゴメリーに戻って母親と共に暮らし始めるものの、その後再び入退院の生活を繰り返した。そして48年3月に入院していたハイランド病院の火災により焼死した。現在、夫妻の遺体はメリーランド州ロックヴィルの共同墓地に埋葬されている。

(本荘 忠大)